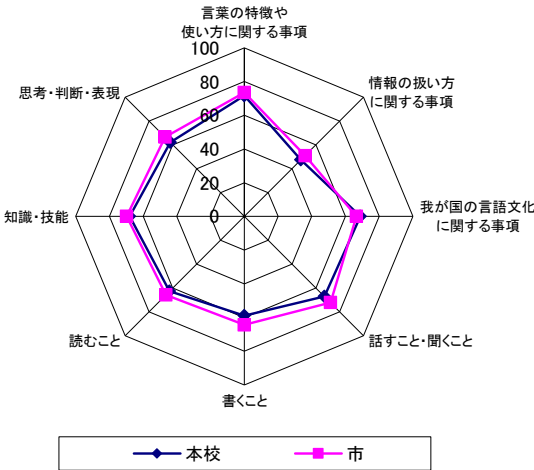


宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.7	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	47.4	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	68.8	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	67.1	72.3	73.7
	書くこと	58.9	64.3	66.6
	読むこと	62.8	65.8	64.9
観点別	知識・技能	68.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	62.1	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	●平均正答率は71.7%で、市の平均と比べて1.8ポイント低い。 ○「三字の熟語の成り立ちについて理解している」項目は、市の平均と比べて2.8ポイント高かった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」項目で市の平均正答率より7.4ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書き、熟語の成り立ち、敬語においては、引き続き、小テストや復習を継続し、漢字の読み書きの定着を図り、言葉の適切な使い方の力をつけていきたい。
情報の扱い方 に関する事項	●平均正答率は47.4%で、市の平均と比べて3.6ポイント低い。 ○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている」項目は、市の平均と比べて1.9ポイント高かった。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」項目は、市の平均と比べて9.1ポイント低かった。	・情報と情報との関係について理解し、文章を要約する力を身に付け、説明文の内容を読み取る学習を適宜行う。また、場合によっては段落ごとに要約する際などに、できるだけ短い言葉でまとめる訓練を教師が意図的に展開していく。
我が国の言語文化 に関する事項	○平均正答率は68.8%で、市の平均と比べて2.3ポイント高い。	・言語由来に関心を持ち、和語や漢語、外来語についての理解を深めることができるように、新出漢字の学習の際、漢字の由来や熟語の学習を行う時間を引き続き設ける。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は67.1%で、市の平均と比べて5.2ポイント低い。 ●「意図に応じて、質問を工夫している」項目は市の平均と比べて9.5ポイント低い。	・トークタイムを活用し、話すことに慣れたり、他の意見と比較しながら聞いたりする学習を意図的・計画的に行う。 ・意図が明確に伝わるような話し方、自分の意図に合った聞き取り方について、教科横断的に指導していく。 ・協働的学びを展開した際に、場合によっては、途中で話の要旨を確認する発言を教師が意図的に取り入れていく。
書くこと	●平均正答率は58.9%で、市の平均と比べて5.4ポイント低い。	・条件に合わせて自分の考えや、その考えの理由を書くことができるように、段落や文字数などに合わせて書く学習を意図的に行う。 ・他教科においても、書く活動を意図的に取り入れ、文章の構成を考える機会を設けていく。
読むこと	●平均正答率は62.8%で、市の平均と比べて3ポイント低い。 ●物語文の「人物像を具体的に想像している」項目は、市の平均と比べて5.4ポイント低い ○説明文の「叙述を基に文章の内容を捉えている」項目は、市の平均と比べて2.7ポイント高い。	・物語文の指導の際は、登場人物の心情について、描写を基に捉える活動を行う。 ・説明文の指導の際は、問い答え、因果関係について押さえながら、文章の構成を捉える活動を行う。 ・初読の感想や疑問から課題を見つけて読み深める活動を行ったり、お互いの考えを共有し、自分の考えと読み比べ、相違点を見つけたりする活動を行う。